

障がい × リハビリ

～地域共生社会を目指して～

知的障がい者も
認知症になるの？

えっ、それも
リハビリ？

2025 ~Same time, same place~
2.11 火・祝

10:00～15:30 ※WEB配信あり
自治医科大学
地域医療情報研究センター大講堂

プログラム 総合司会：石井容子（世話人・自治医科大学看護学部）

第29回在宅ケアネットワーク栃木 「認知症をもっと知ろう！」

10:00 開会挨拶

黒崎史果（大会長・世話人・菅間在宅診療所）

10:15 基調講演1

座長：鶴岡優子（世話人・つるかめ診療所）

「知的障害と認知症」

木下大生さん（武蔵野大学人間科学部社会福祉学科）

11:15 基調講演2

「認知症の人に対するリハビリテーション
～穏やかな在宅生活の継続に向けて～」

山口智晴さん（群馬医療福祉大学）

12:05 討論

12:15 昼食

12:45 アピールタイム

座長：三瀬順一（世話人・愛媛県立南宇和病院）

13:45 来賓挨拶

第3回在宅医療推進フォーラムin栃木 「リハビリテーションが地域をつむぐ」

14:00 シンポジウム

座長：細井直人（世話人・だいなりハビリクリニック）

永島徹（世話人・NPO法人風の詩）

「作業療法士もしている熱気球イベント～

～療法士のポートフォリオワーカーとしての可能性～」

塩田典保さん（一般社団法人Roots 4）

「地域でイキイキ生きる・暮らす～アイリブとちぎ～」
日高愛さん（アイリブとちぎ）

「小児部門 言語聴覚士の働き方」
山崎育さん（ミニヨンズ日光代表理事）

「定期巡回(本業)とリハビリテーション(市民活動)を通じて地域を明るくする」

小野雅之さん（ひなたあんしんサポートセンター佐野）

「一人じゃなくてみんなでなんとかする社会を目指して」
濱野将行さん（一般社団法人えんがお）

15:30 2026年告知

鶴岡優子(次回大会長)

ごあいさつ

在宅ケアの仲間たちは、地域包括ケアを目指してきましたが、今年は地域共生社会構築へのスタートでもあります。疾病・障害も、性別・年齢も、国籍も関係なく、暮らしにくさと向き合う人々を互いに支えあえる地域をめざすことになります。

障害がある人が暮らしやすい街は、妊婦も子供も外国人も誰もが暮らしやすい街。「リハビリテーション」とは実は、地域社会を変えることであると皆様にお伝えできると嬉しく思います。

世話人 太田 秀樹

今回は自身の体の「補修工事」のために参加できず申し訳ありません。皆様には私の好きな聖書の言葉をお持ち帰り頂ければ幸いです。

*たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

コリントの信徒への手紙、13章2節～7節、13節

世話人 趙 達来

本日はお忙しい中でのご参加、誠にありがとうございます。また企画運営に携わって下さった皆様、沢山のご支援をくださった世話人の皆様に心より御礼申し上げます。

在宅医療ではあらゆる年齢、疾患、社会的背景をもつ方が対象となるため、自らの人生とリンクした学びを得ることが多くあります。私は障がいを持つ娘を産んだとき、仕事での経験や、似た境遇にある患者家族の励ましに大きな力を得ました。その一方で、今まで触ることのなかった世界を知り、これまでの知識不足と、様々な可能性への無関心を誠にもったいなく感じました。本日は、その「知らないともったいない知識」を皆様と共に改めて学んでまいります。

大会長 黒崎 史果

在宅ケアネットワーク栃木 過去のテーマ（大会長）

- 第1回（1997）暮らしの中の医療を目指して（大会長：太田秀樹）
- 第2回（1998）実りある人生ー私たちにできることー（太田秀樹）
- 第3回（1999）みんなで支えあう在宅ケアー私たちが今、できることー（高橋昭彦）
- 第4回（2000）21世紀の在宅ケアを目指して（趙 達来）
- 第5回（2001）きりひらこう 新世紀の在宅ケア（太田秀樹）
- 第6回（2002）支えられる福祉から、参加する福祉へ（関 隆郎）
- 第7回（2003）普通に逝くこと 暮らすこと（高橋昭彦）
- 第8回（2004）地域で育む心のケア（奥谷雅生）
- 第9回（2005）食べること、生きること（趙 達来）
- 第10回（2006）コミュニティーが支える在宅ケア 地域力を考える（太田秀樹）
- 第11回（2007）コミュニティーケアを担う人材の育成（三瀬順一）
- 第12回（2008）いまを生きる・ホスピスケア（高橋昭彦）
- 第13回（2009）頑張らない介護生活（趙 達来）
- 第14回（2010）多職種がキャタピラーとなって推進する栃木の在宅ケア（大澤光司）
- 第15回（2011）在宅ケアネットワーク栃木の15年を振り返り、これからへ（飯島恵子）
- 第16回（2012）頑張れ、地域の市民活動（太田秀樹）
- 第17回（2013）在宅への流れ～栃木県の今、そして今後～挑戦です

「在宅医療・在宅ケアの先進県を目指して！」（粕田晴之）
- 第18回（2014）いのちに寄り添う在宅医療～人生の最終章を家で迎えるために、私達が出来ること～（趙 達来）
- 第19回（2015）子どもの気持ちと生命（いのち）に寄り添う～小児在宅ケアの今、そして、これから～（高橋昭彦）
- 第20回（2016）2035年の地域包括ケア～在宅ケアのかたち～（太田秀樹）
- 第21回（2017）いつまでも愛する街ですこやかに（大澤光司）
- 第22回（2018）親を看取る、自宅で看取る、平穏死で逝く在宅医療（趙 達来）
- 第23回（2019）認知症を通じて、誰もが自分らしく生きることを考える～自分らしく生きるために必要なことは…～

（永島 徹）
- 第24回（2020）「お互いさまの処方箋」健やかに、心豊かに、幸せに～社会的処方～（村井邦彦）
- 第25回（2021）withコロナ時代の社会的処方【WEB】（村井邦彦）
- 第26回（2022）withコロナ「これまで」と「これから」～新型コロナが教えてくれたもの～

【WEB】（鶴岡優子・黒崎史果）
- 第27回（2023）テクノロジーがつなぐとちぎの在宅ケア／わが街の在宅ケア～栃木から全国に伝えたいこと～（趙 達来）
- 第28回（2024）「食べる」を考えよう！／食と尊厳（柏瀬昌史）

知的障害と認知症

武蔵野大学 木下大生

1. 知的障害者の高齢化と認知症の関連

日本では、知的障害者の高齢化に関する議論は1980年代後半から始まり、2000年代には介護保険と障害者福祉制度の統合が議論された。知的障害者の老化は一般的に55歳頃から始まると言われ、とくにダウン症がある人はより早期に老化が進行する。過去の調査によると、知的障害がある人の平均寿命は短かったとされていたが、近年は寿命の延伸が確認されている。それに伴い認知症がある人の割合も高まっている。

2. 知的障害者の認知症の特徴

ダウン症がある人における認知症の発症リスクは高く、50歳で40%、60歳で70%に達する。一方、非ダウン症者に関しても、一般の人と比較して早期に認知症を発症しやすいとの報告がある。認知症発見の契機として、ダウン症者では「仕事ができなくなる」「使い慣れた道具が使えない」といった長期記憶障害が顕著であり、非ダウン症者では「言ったことを忘れる」「同じ質問を繰り返す」といった短期記憶障害が主である。

3. 認知症の早期発見の方法

早期発見には、①変化に敏感になること、②ベースラインの設定と予測的モニタリング、③知的障害者用認知症判別尺度（DSQIID日本語版）の活用が重要である。ベースラインを30歳までに設定し、40歳以降は定期的なアセスメントを行うことで、認知症の初期兆候を捉えやすくなる。また、生活上の変化（頑固になる、混乱が増える、交通機関の利用困難など）を見逃さないことが求められる。

4. 支援の課題と対応策

認知症の支援においては、①専門機関との連携、②認知症の特徴の理解と共有、③認知症支援のスタンダードの学習が必要である。特に、環境の変化を最小限に抑え、本人のペースに合わせた支援が求められる。また、障害者支援施設の設置基準は高齢化に対応しておらず、現場の声を政策に反映させる必要がある。あらかじめ詳細な生活歴を記録しておくことが重要である。

5. われわれにできること

知的障害者の認知症支援を向上させるためには、知識の共有と実践が不可欠である。高齢者福祉から学べる支援の知見を応用し、認知症の早期発見と適切な介入を促進することで、より良い支援体制を構築することが求められる。

ご歴歴

武蔵野大学人間科学部教授

(博士：リハビリテーション科学、社会福祉士)

経歴：知的障害者通所授産施設指導員、国立重度知的障害者総合施設のぞみの園研究部研究科係長、聖学院大学人間科学部社会福祉学科准教授を経て現職

研究テーマ：知的障害で認知症症状がある人の支援、知的障害で罪を犯した人の支援、ソーシャルワーク（主としてマクロ領域）

出版等：（単著）『認知症の知的障害者への支援：「獲得」から「生活の質の維持・向上」へ』2020年、ミネルヴァ書房
木下大生・鴻巣麻里香編著『ソーシャルアクション！あなたが社会を変えよう』2019年、ミネルヴァ書房 他



認知症の人に対するリハビリテーション

群馬医療福祉大学 山口智晴

これまで認知症関連の施策では『認知症の人が尊厳を保持しつつ、希望を持って暮らすことができる社会』の実現という目的が貫かれてきた。この基本的考え方に基づき、リハビリテーションはどういうことができるのだろうか？

本講座では、①栃木県における地域の現状とこれから、②認知症に関する世の中の様々な誤解、③認知症のリハビリテーション、④その実践について話題提供させていただく。

①栃木県は2020年と比べ、30年後の2050年には人口が約45万人減少し、高齢化率は10%増加して約4割になると予測されている。しかし、人口減少を市町別にみると55%以上の地域がある一方で、10%程度にとどまる地域もある。高齢化率も県内では25%以上の地域格差が広がる。介護保険は共助であり、本来は保険者がイニシアチブを取りながら、地域の専門職やNPOを含めた企業、住民と一緒に形づくりをする必要がある。だからこそ運営が難しいが、早いうちに取り組まないと、地域包括ケアシステムが絵に描いた餅となってしまう。

②世の中の認知症に対する誤解。例えば、認知症はその定義を考慮すれば、医療だけで解決できないはずだが、病院に行けば何とかなると思っている住民が未だに多い。予防については、巷に怪しげな情報があふれている。何をもって予防とするのかその定義すら曖昧で、認知症に対する偏見を助長させているとすら感じる場面にも遭遇する。コロナ禍で、排除する力の怖さを学んだ我々は、予防をどう考え伝えるべきか。新しい治療薬が開発され、早期診断が進んでいる。一方、早期に認知症と診断されるも、希望していた治療を受けることができない人も増えている。早期診断早期絶望にならぬよう、我々は何ができるだろうか。認知症フレンドリーな社会づくりをしていく流れの一方、本当に国民は予防の意味や共生の意味を理解しているのだろうか？

③認知症のリハビリテーションとは何か？多くの人は未だに認知機能の改善に向けた介入をイメージする様だが、認知症の原因疾患の多くは神経変性疾患である。2015年の認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）では、認知症のリハビリテーションについて、実際の生活場面を念頭に、有する認知機能等の能力を見極め、これを最大限に活かしながら日常の生活を自立し継続できるような支援と記載された。あれから10年経過し、どこまで進んでいるのか？リハビリテーションは、その語源から「その人の本来あるべき姿」を目指すかかわりである。これから軽度に認知機能が低下し、社会生活の継続が困難になる人が増える中、我々に何ができるのだろうか？

④当日は上記テーマについて、演者がこれまで取り組んできた具体的実践を基に、認知症にやさしい地域のあり方について参加者の皆様と考えていきたい。

ご略歴

山口智晴（やまぐちともはる）

群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部 教授

・2004年 国際医療福祉大学 卒

2013年 群馬大学大学院保健学研究科 博士後期課程 修了

・資格：作業療法士、福祉住環境コーディネーター1級

AMP S 認定評価者、けん引免許ほか

・前橋市認知症初期集中支援チーム リーダー、群馬県の介護予防施策や認知症施策のアドバイザー、前橋市地域福祉計画策定WG委員、群馬県作業療法士会副会長、日本作業療法士協会認知症バリアフリー社会推進委員会委員長、NPO法人きなね監事、認定NPO法人じゅんけんぽん理事などを務める



作業療法士もしている熱気球イベント～療法士のポートフォリオワーカーの可能性～

一般社団法人Roots4理事 塩田典保

Keyword：作業療法士は私の一部、市民活動、熱気球活動

1、作業療法（士）は私の一部

栃木県那須烏山市出身。マロニエ医療福祉専門学校へ進学し、2007年作業療法士資格取得し精神科病院にて入院・外来・デイケアにて10年。精神保健領域への課題意識が強く燃え尽きてしまった経験、精神疾患の背景には幼少期への関わりの重要性を強く意識することがあり、児童福祉分野（一般社団法人つばさ）へ転職。現在は、廃校利用型の放課後等デイサービス・生活介護事業に従事している。

「作業療法士のラベルを剥がしたら、何が出来る？社会への成果は？」と問われたことがあります。医療の世界で生きてきた私にとって衝撃的な言葉です。市民団体・異業種団体の方と付き合いが増え、自身の生活欲や武器に気づかされました。そう、作業療法（士）は私の一部に過ぎないことに。

2、必要なだと思うことをやる！（複数の所属・市民活動）

- 2014 熱気球ふれあい事業：知的・発達障がいのある子と家族のための余暇事業団体（高根沢町）
- 2016 一般社団法人つばさ：10年後20年後を見据えた療育、廃校利用（大田原市）
- 2017 たかねざわバルーンクラブ：熱気球教室、イベント事業、フリーフライト（高根沢町）
- 2017 一般社団法人えんがお：高齢者の孤立の予防と解消（大田原市）
- 2023 一般社団法人栃木県作業療法士会 研修部：作業療法士の人材育成（栃木県）
- 2024 一般社団法人Roots4：子どもたちが居る場へかけつける療法士団体（那須塩原市）
- 2024 サンライズプロジェクト：子どもと大人のやりたいが叶う空き家活用事業（那須烏山市）

3、熱気球活動×広がり

たかねざわバルーンクラブの活動も8年。小中学校での熱気球教室（授業）、道の駅・大学文化祭・特別支援学校での記念行事、医療的ケア児者・余暇支援団体向けに、熱気球搭乗体験を延べ120回以上実施してきました。栃木県を飛び越え、関東、東北・四国など全国に広がりをみせています。小学校での熱気球教室をきっかけに、教育委員会や教職員、保護者との接点が増えました。また、「一般社団法人Roots4」と「たかねざわバルーンクラブ」の2つの立場を活かし、東京都武蔵野市にて子育てフェスというイベントに参加。子育て世帯と療法士・団体・企業とが繋がり合う機会づくりに尽力。全国各地の療法士がフリーフライトで接点を持ち、新しいアクションが生まれており、熱気球の魅力と可能性を感じずにはいられません。

私は5つの視点（①自分の武器を自覚する、②解決したいことは「点⇒面⇒立体」で受ける、③感知する嗅覚、④自分の軸・タグ（ラベル）を知る、⑤多軸で動き個人・団体を繋ぐ）を大切にしています。皆さんも、自分は何に心惹かれ、何が出来る人なのか、療法士として生きる場面はどこなのか、考えてみませんか？



Facebook



熱気球ふれあい事業



一般社団法人Roots4

たかねざわバルーンクラブ

〔塩田直通の問い合わせ先〕

fly.story.ns2022@gmail.com

ご略歴

ご略歴は抄録本文よりご参照ください



「地域でイキイキ生きる・暮らす～アイリブとちぎ～」

合同会社リビングアーティスト 副代表・作業療法士 日高 愛

Keyword：「暮らしのデザイン」

私は、塩谷郡高根沢町で「アイリブとちぎ」共同生活援助事業（知的・精神障がい者グループホーム）と精神特化のアイリブ訪問看護ステーションを運営しています。

アイリブ支援の特徴は、“自分で暮らす”をサポートする自律支援です。私は直接支援ではなく「暮らしのデザイン」をサポートしています。本人や家族、アイリブのスタッフ、関係機関と共に答えのない理想の暮らしを対話しながら見出していく、この「暮らしのデザイン」が非常に面白くも悩ましくもあり、一人ひとりが地域で生きる・暮らすことを実感できる過程だと思います。ただ対話をしても、障がい特性や困りごとがうまく伝えられない、誤解を受ける、理解されにくいくとも多く、そこで作業療法士の強みを活かして、アセスメントや困りごと・チャレンジするための「人・物（作業）・環境」の足りないピースを伝え、選択肢を増やすなど、「暮らしのデザイン」のサポートを行っています。特に、一人ひとりの“良いとこ探し（ストレングスアセスメント）”や“ポジティブフィードバック”を心がけています。地域で暮らす障がい者をサポートするセラピストや専門職が增多することでより多くの障がい者の方が地域でイキイキ生きる・暮らすことができると思います。

そして、アイリブとちぎは、障がいのある方もない方もすべての方が笑顔でいきいきとやりがいや夢・希望をもってチャレンジできる！あたり前に地域で共に暮らす！そんなコミュニティリカバリーモデルを目指しています。多様なアイリブメンバーの「暮らしのデザイン」が多くの方の勇気と笑顔に繋ればと思っています。



図 アイリブとちぎが目指す
コミュニティリカバリーモデル

ご略歴

- 2004年 大阪で作業療法士免許取得
石川県能登半島のけいじゅヘルスケアシステムで
急性期～訪問リハビリを経験
- 2008年 大阪市内で訪問リハビリに従事
(介護支援専門員、ヨガインストラクター取得)
- 2018年 大阪で作業療法士養成校教員（週4）
ヨガスタジオ（週1）、特別支援学校OT相談、
栃木県で合同会社リビングアーティスト設立、
アイリブとちぎ（共同生活援助事業）開業
- 2020年4月～拠点を栃木県へ
- 2021年 「キラリと光るとちぎの企業」表彰、
アイリブ訪問看護ステーション開業
- 2023年 「私が私として、私らしく生きる、暮らす」
シェアハウス アイリブとちぎ
Byクリエイツかもがわ を出版
- 2024年 現在に至る

小児部門 言語聴覚士の働き方

児童発達支援・保育所等訪問支援 事業所／(一社)ミニヨンズラボ 代表理事

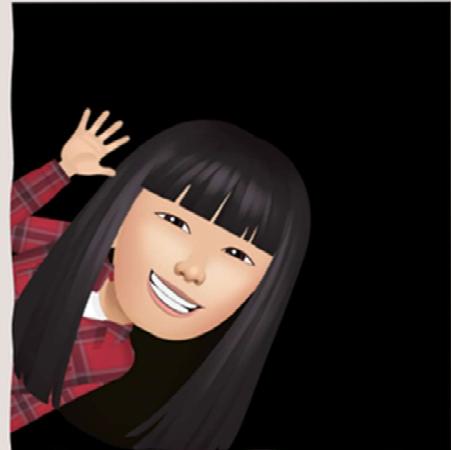
言語聴覚士 山崎 育

Keyword : リハ職と思ってないST

やま ざき いく
山崎 育

ミニヨンズラボ 代表

県発達障害者支援アドバイザー
言語聴覚士
日光市に、
育てるコツがいる
ユニークタイプのちびっこ
そのママ達が楽しく過ごせる
児童発達支援
保育所等訪問支援事業所を作ります。



ご略歴

- 1987(昭和62)年 上智大学 文学部社会福祉学科卒
精神薄弱児通園施設（現児童発達支援センター）つくも幼稚教室 児童指導員 入職
同上 休職
- 1992(平成4)年 国立リハセンター学院 聰能言語専門職員養成課程 入学
- 1994(平成6)年 同上 卒業
つくも幼稚教室 復職
- 1996(平成8)年 同上 退職
千葉県こども病院・昭和大学病院 非常勤ST
- 1997(平成9)年 国際医療福祉大学 言語聴覚センター 常勤ST
- 1999(平成11)年 第1回 言語聴覚士国家試験 合格
国際医療福祉大学 言語聴覚センター 退職
今市市（現日光市）保健福祉部（障害児通園施設） 入職
- 2016(平成28)年 同上 退職
- 2017(平成29)年 一般社団法人ミニヨンズ日光 開設
- 2018(平成30)年 児童発達支援事業所 ミニヨンズラボ 開設
- 2020(令和2)年 栃木県発達障害者支援アドバイザーバンク 登録（言語聴覚士）

定期巡回（本業）とリハビリテーション（市民活動）を通じて、地域を明るくする

ひなたあんしんサポートセンター佐野/地域を明るくするリハビリテーション専門職の会

小野 雅之

Keyword：ひとりの市民として、相手の土俵に入り込む

【はじめに】

2024年からのテーマは「定期巡回とリハビリテーションを通じて地域を明るくする」です。私が地域に出始めた2014年は「地域って何？」という手探り状態でしたが、飛び込んでみると、地域の魅力とリハビリテーション専門職（以下リハ専門職）が果たせる大きな役割に気づくことができました。リハ専門職として、市民活動実践者として地域とつながり、地域をつむぐために実践してきたことをここで共有したいと思います。

【定期巡回とは】

定期巡回・隨時対応型訪問介護看護の略称は「定巡」です。まだ設置されていない地域も多いですが、定巡は24時間365日いつでも電話対応が出来、必要な時は訪問することが可能な訪問介護です。地域住民とのつながりや他事業所との協働が必須とされています。例えば、特養での実技研修や写真屋さんでの介護相談などを通じて、私たち佐野市内を駆け回っています。現在は介護職員初任者研修修了者として業務にあたっていますが、訪問リハを提供していたときよりも利用者のADLやQOLの向上に寄与している実感があります。

【市民活動とは】桜ヶ丘中央病院の理学療法士小野先生として、数百回、数千人の前で講話しましたが、目の前の一人の人生に変化をもたらした実感はありませんでした。そこで市民活動実践者のおのちゃんとして活動し、その背景がたまたまPTという届け方に変更しました。その結果、さまざまな相談や依頼を受け、助成金を採択しながら伊豆諸島での介護予防活動を行うことができました。転職する際、「おのちゃんがいなくなることは大和市にとって損失」と地区社協会長に言われたのは、とても感激しました。

【おのちゃんなりの地域とのつながり方】リハビリテーションの知識と技術は私たちの必殺技です。その必殺技を発揮するためには、目の前の方に相談したいと思ってもらえる「ヒト」であることが重要です。困った時に「ひなたに相談しよう」「おのちゃんに聞いてみよう」と思ってもらった瞬間に、最大の効果を発揮するのです。リハビリテーション専門職や介護職になった理由は、目の前の方の役に立ちたいという想いが多いのではないでしょうか。地域とつながり、地域をつむぐために、まずは地域へ飛び込み、相手の土俵に入り込むことで地域のお役に立つことが出来るようになります。当日は本抄録を読んでくださったあなたと、会場で名刺を交換し、直接意見交換できることを心より楽しみにしております。

ご略歴

29歳で理学療法士になり、老健での通りハ、訪りハを経験し、もっと病気やけがを知らないと利用者と家族の生活を支えられないと考え、病院に転職。

病院で地域を支えられているという勘違いに気付き、病院からアウトリーチし介護予防にのめりこむ。介護予防を行ううちに、市民活動団体を立ち上げ、地域を明るくする超行動派理学療法士おのちゃんと名乗り始める。講話回数400~500回、延べ参加者は5,000人を超える。



「一人じゃなくて、みんなで何とかする社会を目指して」

一般社団法人えんがお 代表理事 濱野将行

Keyword : 地域共生社会

初めまして。栃木県大田原市で「一般社団法人えんがお」という法人を運営しております、濱野と申します。えんがおでは、徒歩5分圏内に9軒の空き家を活用し、高齢者サロン、居住支援、地域食堂、若者向けシェアハウス、障害者施設、学童保育、子どもの遊び場などを運営しています。徒歩圏内にあることで、子どもから高齢者まで、障がいがあってもなくても、すべての人が日常的に交流する地域コミュニティを作り、みんなで運営しています。

運営面は課題だらけで、失敗ばかりの事例ですので、決して成功事例のような形では紹介できませんが、こうした日々の葛藤を含め、これからについて、答えのない問いを皆様と一緒に考える時間にできたら嬉しく思います。

他の先生方がきっと素晴らしい抄録を書いてくださるかと思いますので、僕はほっこりした写真を添付しておきます。



ご略歴

栃木県矢板市出身、作業療法士。大学卒業後、老人保健施設で勤務しながら「学生と地域高齢者のつながる場作り」を仕事と両立する中で、地域の高齢者の孤立という現実に直面。根本的な解決に届く地域の仕組みを作るため、2017年5月「一般社団法人えんがお」を設立し、作業療法士の視点を活かしながら、高齢者と若者をつなげるまちづくりに取り組む。

現在、年間延1000人以上の若者を巻き込みながら、徒歩2分圏内に8軒の空き家を活用し、高齢者サロンや学童保育、フリースクール（不登校支援）・地域食堂・シェアハウス・障害者向けグループホームなどを運営。子供から高齢者まで、そして障がいの有無に関わらずすべての人が日常的に関わる「ごちゃまぜの地域づくり」を行っている。好きなものはビールとアウトドア。

MEMO

展示参加16団体【あいうえお順】

- 一般社団法人Roots 4
- 医療法人アスマス栄養CSぱくぱく
- NPOとちぎアニマルセラピー協会
- 株式会社日本ケアサプライ
- クオール薬局
- 佐野子どもよりそいコミュニティ
- ソーシャルケアワーカー集団しもつかれいど
- チームオレンジなすしおばら
- つるカフェ／日本社会事業大学
- 栃木県リトルベビーサークル
- 日本ダウン症協会栃木支部
- 認定NPO法人うりずん
- 壬生町相談支援センター
- 村井クリニック
- リレーフォーライフ
- 分かち合いの会in那須



アピールタイム参加12団体【あいうえお順】

※注意…発表順ではありません

- いいこみ
- 一般社団法人Roots 4
- NPO法人那須こどもホスピスプロジェクト
- 株式会社日本ケアサプライ
- クオール薬局
- 地域包括支援センター雀宮・五代若松原
- 社会福祉法人明日会
- チームオレンジなすしおばら
- つるカフェ／日本社会事業大学
- 栃木県リトルベビーサークル
- 認定NPO法人うりずん
- 村井クリニック



次は第30回!

おかげさまで2026年2月11日在宅ケアネットワーク栃木は第30回を迎えます。1997年「暮らしの中の医療を目指して」に始まり、常に身近で旬なテーマを取り上げてきました。30回を振り返り、ここで一度「はて？」と立ち止まってみたいと思います。NHK朝の連続テレビ小説「虎に翼」の法律事務所の壁には憲法14条がありました。「尊厳をまもるケア」について皆さんと一緒に考えたいと思います。 第30回大会長 鶴岡優子(つるかめ診療所)

~Same time, same place~

2026.2.11(水・祝)

石井容子（自治医科大学看護学部） 岩本佳代子（認定栄養ケア・ステーションぱくぱく）

大澤光司（株式会社メディカルグリーン） 大竹伸子（市民） 太田秀樹（医療法人アスマス）

大友文雄（大友歯科医院） 柏瀬昌史（柏瀬歯科医院） 黒崎史果（菅間在宅診療所）

高橋昭彦（ひばりクリニック） 趙達来（医療法人創生会真岡西部クリニック）

鶴岡優子（つるかめ診療所） 永島徹（NPO法人風の詩ケアプランセンター南風）

細井直人（だいなりハビリクリニック） 三瀬順一（愛媛県立南宇和病院）

村井邦彦（医療法人社団宇光会村井クリニック）



世話人一同お待ちしております

THANK YOU VERY MUCH!

松澤英克様

リハビリテーション専門職協会訪問リハビリテーション推進部会の皆様

早朝からご参加下さったボランティアの皆様

運営協力下さった全ての皆様へ

また来年！



主催：在宅ケアネットワーク栃木

共催：在宅医療助成勇美記念財団・全国在宅療養支援医協会

後援団体(順不同)：栃木県 栃木県医師会 小山地区医師会 宇都宮市医師会 那須都市医師会 芳賀都市医師会 栃木県歯科医師会 栃木県薬剤師会 栃木地域薬剤師会 全国介護事業者連盟栃木支部 栃木県栄養士会 とちぎケアマネジャー協会 栃木県理学療法士会 栃木県作業療法士会 栃木県言語聴覚士会 栃木県リハビリテーション専門職協会 栃木県手をつなぐ育成会 日本ダウン症協会栃木支部つくしの会 栃木県看護協会 栃木県訪問看護ステーション協議会 栃木県弁護士会 栃木県司法書士会 成年後見センター・リーガルサポートとちぎ支部 栃木県社会福祉士会 栃木県精神保健福祉士協会